

■プロローグ■

枕の歴史は長く、人類が睡眠の質を高めるために生み出した道具です。

紀元前 7,000 年の古代メソポタミアや、紀元前 1,300 年の古代エジプトで見ついているため、遅くとも都市文明が発達した頃には用いられていたようです。

墳墓から枕が出土することもあるので、死者のための枕も出現していました。

それでは、東アジアで見ついている死者の枕はどうでしょうか。

代表的なものに、中国では、113 年に没した、中山靖王劉勝（ちゅうざんせいおうりゅうしょう）の墓から出土した軟玉（なんぎょく）製の石枕（いしまくら）があります。

また、韓国では、523 年に没した、百濟（くだら）の武寧王（ぶねいおう）の墓から、装飾された木製枕が出土しています。

日本では、弥生時代に死者のための枕が出現し、古墳時代に発展しました。

頭部を載せる役割から、死者と密接な関係にあった枕は、葬送儀礼を解明するうえで欠かせない資料です。

当時は、死者を埋葬する前に、古墳以外の場所に一定期間安置して、死者をとむらう儀礼をおこなっていたようです。

この葬送儀礼は、日本書紀（にほんしょき）に見える殯（もがり）と考えられ、本展で陳列している枕は、それに関わる資料と考えられています。